

こんにちは 森林官です!

根釧東部森林管理署
別海森林事務所
森林官
(別海担当区)
倉内 晃



別海森林事務所は、世界遺産でもある知床半島の南側から根室市にかけての国有林を管轄する根釧東部森林管理署のうち、別海町に所在する国有林を管理しています。

別海町は、人口約8千人に対し、牛の頭数が約11千頭と酪農が盛んであるとともに漁業も盛んで、特に北海シマエビは有名です。

北海シマエビ漁は、打瀬船と呼ばれる帆船による曳網漁で年に2回(夏、秋)行われ、北海道遺産になっています。

国有林と北海道遺産

別海森林事務所が管理する国有林の特色として、格子状防風林があります。森林事務所庁舎も防風林の中にあり、時折、エゾリスが顔をのぞかせます。

格子状防風林は、この地域で発生する夏の海霧や、冬の強い北風が吹き付ける厳しい気象条件から根釧台地の酪農地帯を守るため設置され、直線

部分の最も長いところで約27kmにも及びます。



格子状防風林

また、その歴史は古く、北海道の開拓当初から設定されていましたが、戦後、他の地域では大規模な農地開発が行われるなど伐採が進みました。

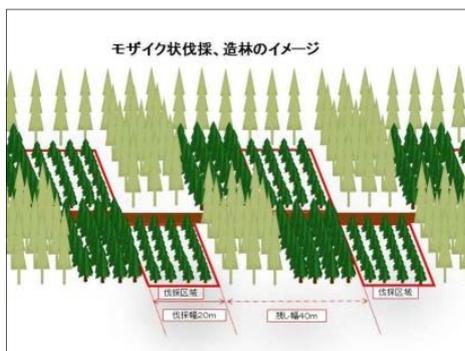
しかし、根釧台地においては前述したように厳しい気象条件から農作物等を守るほか、視界が真っ白になるホワイトアウト現象の軽減や防風、防霧効果が認められ、現在もその形をとどめており、2001年には北海道遺産に指定されています。

防風林の施業方法

防風林の多くは人工林であり、間伐を中心に適

切な伐採と更新が行われる必要があります。(林況・カラマツ40%、トドマツ、アカエゾマツ、広葉樹が20%)

そのため、列状に伐採した後には造林を行って複層林化を図るほか、主風方向(北側)に防風帯を設け、モザイク状に伐採、造林を繰り返すことで、持続して防風林としての効果が発揮できるように施業方法を工夫しています。



野付風蓮道立自然公園

管内には野付風蓮道立自然公園があり、季節によっていろいろな花が見られるほか、オオワシや、オジロワシ、タンチョウ

などの希少な鳥類が飛来します。

この他、保護増殖事業の一環として、野付半島の国有林などで鳥類の生息調査を実施しています。



野付風蓮道立自然公園

今後は、防風林については、その機能を発揮、持続させるために、格子状に配置された特徴的な人工林の特性を理解し、各事業が円滑に行われるよう管理していく考えです。

また、野付風蓮道立自然公園を含む国有林に生息する野生生物を保護・管理するための巡視を継続し、地域との関わりを大切にしながら頑張っていくしたいと思います。